

## 《学習会 - 泊研修》

主題「部落解放の主体者として」 キャンプファイヤーでの話し合い

日時 1993年8月25日

場所 相生町あいあいらんど

T (富加見) 今日の日もとつぷりと暮れて、まもなく暗闇に包まれると思います。今からキャンプファイヤーをしながら、みんなでいろんな思いを語り合いたいと思います。まず暗闇を照らしてくれて心まであったかくしてくれるような火をつけたいと思います。いつもは火の神様を呼ぶんですけど、今日は自由の女神さんをみんなで呼んでみたいと思います。みんなで一緒に声を合わせて呼びましょう。

全員：自由の女神さん！

T (富加見) 拍手で迎えてください。

全員：（拍手）

T (富加見) それではお話をさせていただきます。

T (木内) 私は『あいあいらんど』の森の中に住まいする自由の女神です。私たち神は人間だけに火を与えました。その火を大切に、そして幸福に豊かな生活を続けてもらいたいと思います。しかしながら、生活が豊かであっても、心が荒みかけているような感じがします。

人を差別する心、人を憎む心、時には人の生命を奪う行動をする心、大変悪い心が氾濫しています。そこでこの火を囲み、今私たちに大切なものをみんなで学んで、人間としてよりよく生きる基にしていきたいと思います。

T (富加見) 女神さん、ありがとうございます。それでは各班の代表の人に各班の誓いの言葉を述べてもらいます。

《各班の班長が女神から火をもらい誓いの言葉を述べていく。》

C<sub>1</sub>：私たちA班は、力強く生きて仲間を増やしていくことを誓います。

C<sub>2</sub>：私たちB班は、友情の輪を広げ差別解消のために生き抜くことを誓います。

C<sub>3</sub>：私たちC班は、差別解消に取り組んでいくための力をつけ、信頼できる友を増やし、仲間づくりしていくことを誓います。

C<sub>4</sub>：私たちD班は、友と支え合いよりよく生きることを誓います。

C<sub>5</sub>：私たちE班は、差別をなくし明るい社会をつくることを誓います。

C<sub>6</sub>：私たちF班は、平和な世界をつくることを誓います。

C<sub>7</sub>：私たちG班は、家族の支えがある人、家族の中から話し合いを持つことから始めなければならない人、立場は様々ですが、みんな差別と闘っていこうと話し合っただけで今日また一つ成長しました。今、私たちにできることはみんなの前で本当の思いを語っていくことであり、差別に背を向けずに立ち向かっていくことだと思います。これからも差別に背を向けず闘っていくことを誓います。



C<sub>9</sub>：私たちH班は、部落問題学習を通して友情の輪を広げることを誓います。

T（富加見）全員でもう一度大きな拍手をしてください。

全員：（拍手）

T（富加見）それでは点火してください。

班長：（トーチの火を薪に点火する。炎が高々と燃え上がる。）

T（富加見）自由の女神さんからいただいた火が、このように天高く燃え上がっております。みんな「燃えろよ燃えろ」を歌いたと思います。

全員：（「燃えろよ燃えろ」を合唱する。）

T（富加見）この火はみんなの熱い思いを語っていく間中燃え続けていくと思うんです。今から昼間班別に学習したみんなの思いを一人ひとり語りあいましょう。みんなでみんなの思いを確かめ合って、本当にすばらしい時間を過ごしたいと思います。

《ファイヤーを囲んでいる生徒たちがマイクを廻しながら次から次へと語っていく》

C<sub>9</sub>：昼間、A班で部落問題学習をしたとき、いろいろな話が出てきました。その中で私の一番心に残っていることは、交流学習のときも話し合ったことなんだけど、私たち同和地区の子には学習会という同和问题学習をする場があるのに、どうして地区外の子には学習会のような場がないのかという話が印象に残りました。1年生から3年生までみんなで意見が言い合えてよかったと思います。

C<sub>10</sub>：Tさんと一緒に私も部落の子だけに学習会があって、地区外の子には学習会がないというのが心に残っています。昼間の班別学習は学校の部落問題学習とまた違った雰囲気でみんなの本当の思いが語られてとてもよかったと思います。

C<sub>11</sub>：昼間の話し合いとあまり関係ないことなんですけど、差別というのは口に出してしない方が多いと思うんです。それは車椅子に乗った人を見たときに口には出さなくて心の中で不便とか、可哀相とか思ってしまうからです。車椅子に乗っている人は自分は可哀相ではないと思っています。それと部落差別がなくなっても差別者はなくならないと思います。

C<sub>12</sub>：学習会のみなどだったら意見はたくさん言えるけど、学校でしている全体学習ではまだ考えていることが言えないので、全体学習でも頑張れるようになりたいです。

C<sub>13</sub>：今日の話し合いで僕はまた部落差別の深さを知ることができました。今からの話し合いも昼間の話し合い以上にすばらしいものにしたいです。

C<sub>14</sub>：自分の本当の思いをみんなに伝えて、本当の仲間をつくっていくことが、差別をなくしていくことにつながると思います。

C<sub>15</sub>：学習会に参加していない子にも参加してもらいたいです。

C<sub>16</sub>：学校の部落問題学習のときに、自分のことと思わずに他人ごとのように思っている人がいるので、そういう人にもこんな話し合いに参加してもらいたいです。

C<sub>17</sub>：昼間に実施した部落問題学習はいつもと違う雰囲気です。1年生から3年生までいて、いろいろな意見が出てきてみんなそれぞれにづらい部分を持っているんじゃないかなと思いました。

C<sub>18</sub>：今日僕はあまり意見が言えなかったけど、これから頑張れるようにしたいです。

C<sub>19</sub>：今日の班別学習は語れたけど、今度するときは語れないかもしれないので、いつでも自分の思いが語れるように努力していきたいです。

C<sub>20</sub>：僕は部落のことを隠していくよりも部落のことを話し合っていくことに意義があると思うので、これからも自分を変えていくために頑張りたいと思います。

C<sub>21</sub>：今日M先生と初めて勉強したけど、今まで言えなかったことが全部言えて、みんなの意見

も聞けてよかったです。

C<sub>22</sub>：これからもっと部落問題について学習をして、もっと自分の思いが言えるようにしたいです。

C<sub>23</sub>：これから部落問題学習のときに先生に聞かれたら、迷わず自分の思いを言っていきたいです。

C<sub>24</sub>：今日の部落問題学習で一つ思ったことは、1年生の女子の意見がすごくしっかりしていたことです。私が1年のときには意見が言えなかったので、すごいなあと思いました。これからもみんなで差別解消に向けて頑張りたいと思います。

C<sub>25</sub>：私たちの学習会場はすごく人数も少ないけど、今日一泊研修に参加したことで、仲間がすごくたくさんいることがわかって、差別解消に取り組んでいく勇気がわいてきました。

C<sub>26</sub>：昔の人が頑張っても部落差別をなくすことができなかつた分、僕たちが精一杯頑張つて部落差別をなくしていく一人の人間になっていきたいです。

C<sub>27</sub>：僕は部落問題がわからなかつたので、これからみんなでもっともっと学習してわかるようにしていきたいと思います。

C<sub>28</sub>：部落差別を一緒になくしていきけるような仲間をつくっていきたいです。

C<sub>29</sub>：部落差別をなくせるように信頼できる仲間をつくつて、自分自身も信頼されるように頑張りたいと思います。

C<sub>30</sub>：私は友だちと一緒に少しずつでも部落差別をなくしていけるように頑張っていきたいです。

C<sub>31</sub>：班別学習のとき、だれかの話で身近に差別を受けている人がいることを知つて、もっと部落問題学習やそれ以外のことも頑張りたいと思いました。

C<sub>32</sub>：一人で悩んで突っ走るより、立ち止まって周りを見たら、これだけたくさん仲間がいるので誓いの言葉の通り支え合つて、たくさん友だちと差別解消に向けて頑張っていきたいと思います。

C<sub>33</sub>：周りの人が差別をしていたら、止められるような人間になっていきたいです。

C<sub>34</sub>：これからもっと部落問題学習を頑張つて、どんな差別にも負けない強い心をもって、差別解消に向けて頑張っていきたいと思います。

C<sub>35</sub>：みんなで努力をして差別をなくせるようにしたいです。

C<sub>36</sub>：今日の班別学習でこの問題は絶対なくさなければいけないと思いました。

C<sub>37</sub>：今日の昼間、何も言えなかつたけど、これからしっかりと自分の気持ちが言えるようにしたいです。

C<sub>38</sub>：これから部落問題学習のことをもっと勉強して差別をなくしていきたいです。

C<sub>39</sub>：学校とか学習会では自分の学年以外の人と話し合う機会はないんだけど、違う学年の人の意見も聞くことができてよかったです。私にはこれと違って別に関する悩みはないんだけど、



みんなのいろんな思いを聞く中で差別はみんなでなくしていかなあかんと思うようになりました。

C<sub>40</sub>：もう3年生なので部落問題学習をしていく機会が少ないと思うけど、これからの1回1回の学習の機会を大切にしていきたいと思います。

C<sub>41</sub>：これからもっと差別解消の勉強をして私も差別をなくしていくことができる一人になりたいです。

C<sub>42</sub>：差別されてもその差別に負けないような心をつくっていききたいです。

C<sub>43</sub>：差別に立ち向かっていく勇気をもって、もっと強い人間になっていききたいです。

C<sub>44</sub>：部落差別に対してもっと強い心を持ちたいです。

C<sub>45</sub>：今日は自分の意見がはっきり言えなかったので、今度からはっきりと言いたいです。

C<sub>46</sub>：部落差別をする方が間違っていると思います。

C<sub>47</sub>：思っていることをはっきりと今のS君のように言って、それについてみんなで考えていけたら、もっと確かな意見になっていくと思います。

C<sub>48</sub>：今日の班別学習は1年から3年までのメンバーで話し合うことができてよかったと思います。

C<sub>49</sub>：いつも自分は指名されるまで意見を言ってなかったけど、これからはできるだけ自分から意見が言えるようにしたいです。

C<sub>50</sub>：これからは自分の思いをはっきりさせたいです。

C<sub>51</sub>：今日は自分の思いがはっきり言えなかったので、自分の思いが言えるようにしたいです。

C<sub>52</sub>：昼間の部落問題学習では、やっぱり今頑張っていないと後で部落を恥ずかしがって隠していくような自分になってしまうと思うので、今頑張って発表していききたいです。

C<sub>53</sub>：昼間の話し合いのときにあまり発表できなかったので、これからは一生懸命発表していききたいです。

C<sub>54</sub>：今日の班別学習では指名されるまで意見を言うことができなかったので、今度から指名されなくても意見が言えるようにしていきたいです。

C<sub>55</sub>：今日の班別学習ではあまり発表できなかったので、これからは差別に立ち向かっていく力をつけていきたいと思います。

C<sub>56</sub>：今日の昼間の話し合いで、自分が部落に生まれたことを「いつ」「どこで」「だれから」「どのように」知ったかとか、結婚差別についてとか、自分の親のこととかで話し合ったけど、そのとき1年生や2年生の意見とかも聞けてとてもよかったと思います。今日のみんなとの話し合いを2学期からの学習の中にも生かしていきたいし、自分の思っていることをはっきりと言えるように頑張りたいと思いました。

C<sub>57</sub>：今日あまり発表できなかったけど、みんなの意見を聞いていると私も頑張らなければと思います。

C<sub>58</sub>：今日の班別学習では先輩の意見が聞けて、自分と違う考えかたがいろいろ出てきてすごく勉強になりました。

C<sub>59</sub>：今日の班別学習では先輩たちの意見を聞いて、もっともっと頑張らなければいけないと思いました。

C<sub>60</sub>：僕たちの班はK先生を中心にいろんな思いが語り合えてよかったです。

C<sub>61</sub>：僕は思っていることを言葉に出して言うことがあまりうまくないので、もっと知識とかを増やして思っていることが言えるようになりたいです。

C<sub>62</sub>: 僕が大人になったとき部落差別はなくなっているという目標をもって、これからの部落問題学習をみんなで頑張っていきたいと思います。

C<sub>63</sub>: 日頃心を通わせていない仲間とも、今日の班別学習で仲間になれたような気がするので、この仲間を大切にしていきたいと思います。

C<sub>64</sub>: 今まで一緒に部落問題学習をしたことがなかった人とも今日の班別学習を通して、いろんな考えを確かめ合うことができたと思います。

T (森口) 1年生の女子の思いを書いた文章です。

※

「6年生までは自分が部落の人間とは知らなかったの、知ってからはずごく嫌でした。何か自分が差別されそうで、あそこの子と遊んだらいかんと言われてそうで嫌でした。自分が差別されそうで部落問題もあまり言う気がしないから嫌いだ。これから友だちをつくって差別するようなことを言ったら、『何でそんなことを言うん』と言って差別に反対して差別をなくしたい。そして、平和に暮らせるようにしたい。差別する人はりっぱな人間になれないと思う。そして絶対差別から逃げない。そんな生き方をしたい。」

※

T (森口) いろいろな話をみんながしてくれましたけど、みんなは中学校の段階でこういう機会に恵まれてすごく幸福だと思います。徳島県下の多くの中学校で学習会が行なわれているけど、なかなか突っ込んだ部落問題の学習ができていないのが現状です。非常に悲しい現実があります。この問題は綺麗事や建前を言って表面を繕っていくことでは絶対になくなっていきません。そのことはみんな自身が最もわかっていることだと思います。今板野中学校で取り組んでいる全体学習が、ものすごい勢いで徳島県下また香川県の方に広がっていきようとしています。人間の本当の思いを語る。みんなの本当の思いを語る。学校の先生も本当の思いを語っていく。そういう学習というものが求められています。なかなか自分のことは語れませんでした。自分のことは安全なところにおいて部落問題を自分自身の生活に触れない、差し障りのない部分でほとんどの先生が語ってきた。だから子どもたちも差別というのは、遠い遠いところにあるものだと思ってしまい、自分に関わる問題とはとらえることができなかつた。悲しいかな部落の子でありながらそのことに非常に無関心であり、同和教育を受けてきたのにずっと自分の立場を自覚することなしに成人を迎え、結婚して子どもができて初めて自分の立場を自覚する。そんな現実もあります。みんなは中学のこの段階で、小学校のある時期に自分の立場を自覚して行って、そして、部落がどうしたと言える生き方をつかんでいきようとしている。そのことは人間として生きていくことにおいて本当にすごいことなんです。人間として何が悲しいかということ、人を差別していくことぐらい悲しいことはありません。自分の立場を知らずして部落差別をしていくような生き方ぐらい悲しいものはありません。みんなはそのおかしい差別、愚かな差別と闘うことを今しようとしている。今みんなが一つになって頑張ることは、みんなの所属するそれぞれのクラスで今日語り合ったことをクラスの仲間を信じて語っていくことです。そのことがみんな一人ひとりに問われていると思います。みんなは本当の思いを語ることから、みんな自身が差別と闘う本当の生き方ができていく。それがみんなが人間として人間らしく生きていくスタートになっていくと思います。今年の3年生がしている全体学習がまさしくそうなんです。Mさんが第1回の全体学習で語ったことが、多くの仲間や学習会の仲間を奮い上げさせ立ち上がらせていった。あの全体学習で初めて自分が同和地区の人間って知った人もいる。そのくらい真に迫る全体学習であった。

意見のある人、手を挙げてください。

C<sub>65</sub>：今、森口先生が言ってくれたことで、第1回目の3年生だけの全体学習のとき、Mさんが初めて自分は学習会に行っているということを発表してくれて、今まで自分が学習会に行っていることを言わなければみんなは真剣になってくれないと思っていたけど、自分の心の中にはそのことは言わなくてもいいという気持ちがあって、自分の本当の気持ちを言うことができないでいたけど、Mさんのおかげで自分のその立場をみんなに言うことができ、全体学習の発言とかもすごくしやすくなったし、自分は学習会の仲間や友だち、いろんな先生と出会って自分が変わっていったと思うので本当に感謝しています。そして3年生になって出会った人たちがいなければ、私はこの一泊研修にもきてなかったと思うし、こんな話し合いもできなかつたと思います。

T（木内）今、3年生の人が立派な意見を言ってくれました。それで1年生も2年生も3年生も一つになって学習していくことはとても大切なことだと思いました。今まで何も言えなかつた人がこの学習をしていく中で自分を自覚するようになって、この問題に真剣に取り組むようになって、自分の思いを心からみんなに訴えて、そしてみんなから意見をもらい、また考える。そんなやり取りによって本当の学習がしていけるようになるんだなあと思いました。さすが3年生の人は3年間、2年生の人より1年間、1年生の人より2年間、学習をつんできています。だからより豊かなものが心の中に育っているんだと3年生の発言を聞きながらつくづく思いました。やっぱり勉強が大切なんだということを思います。この学習は自分自身のためにあるんだと思います。先生にとっても全くそうです。自分自身のためにやっているという自覚が必要です。そんな強い意志を持ってしっかりと意見を述べ合い、考えを深め合ってほしいと思います。そしてしっかりと2学期も学び、みんな一人ひとりが解放の主体者であってください、

C<sub>66</sub>：私たちの班では部落差別がなくなったら学習会はなくすのか、それともそのまま続けるのかという話になったんです。そのとき私が思ったのは、今の学習会は部落差別をなくすためにあるけど、もし部落差別がなくなったら、今度学習会というのは部落差別とか他の差別を二度と繰り返さないための学習会になると思うんです。それで他の班の人はどう考えているか聞きたいです。

T（森口）友だちの思いにつなげてほしいです。

C<sub>67</sub>：私は部落差別がなくなっても、この学習は他の一切の差別をなくしていくという学習として続けなければならないと思います。でも学習会という取り組みはなくなってしまうのかなあと思うけど、私は他の一切の差別をなくすために学習会はあった方がいいと思います。

C<sub>68</sub>：私はNさんと同じ班なので答えは同じです。もし部落差別がなくなっても同じことを繰り返すようになるかもしれないので、学習会は残すべきだと思います。学習会はやっぱり大切な学習の場だと思います。

C<sub>69</sub>：僕は学習会は残すべきだと思います。部落差別がなくなっても昔の人はこんなつらい思いをしながら頑張ってきたということを、人間としての生き方として学んでいくべきだと思います。

C<sub>70</sub>：部落差別というのは一応全国の問題だから、今なくなったといってもすぐに消滅するものではないと思います。それと、もし部落差別がなくなっても他にもっともって考えなければならない障害者差別とかの問題があると思うし、他の差別をなくしていくためにも学習会の意義があると思います。

- C<sub>71</sub>：僕も差別は部落差別だけではないと思います。他に障害者差別とかいろいろな差別があると思います。それにも立ち向かっていけるように、まず身近な部落差別をなくし、それから他の差別をなくしていかなければならないと思います。
- C<sub>72</sub>：私は部落差別がなくなるかどうかはよくわからないんだけど、部落差別がなくなったというのを保障できるものもなかなか見つけることはできないと思うんです。私は学習会の本来の目的というのもあるけど、すべての差別をなくしていくためにも学習会は絶対に続けてほしいと思います。私はこのような差別について考える場というのはとても大切だと思います。人の差別意識をなくしていくためにもこの学習会は続けてほしいです。
- T（阿部）Tさんがさっき言ってくれたんですけど、私たちがどうして自分の苦しい思いを言わなければならないのかということ……。先生の経験から言うと、部落に生まれたということ話を話してくれた方が、差別解消の近道だと思います。自分は地区外に生まれたと思っている人や自分は部落ではないと思っている人は、他人ごととしかとらえていないのが現実です。私自身がそうでした。なかなか自分の問題にならないんです。どこかで自分は部落でないんだという意識が働いてしまうんです。何度も何度も部落の人たちの差別の中を生きてきたという思いを聞かなければ、自分は変わらなかったと思います。人間が変わっていくというのはいろんな話を聞いて、それに感動したり、心を動かしたり、揺れたりしながら変わっていくんだと思うんです。だからもっともっとみんなが地区外の人を揺り動かしていくようなドキッとするような思いを伝えていくことが、地区外の人を変えていくようになると思うんです。私はそういう自分にしていく場がこの学習会の場だと思います。
- T（森口）3年生の人が思いをつないでくれたんですけど、1年生2年生の人、こんな機会というのは年に1回しかないんで、みんなの思いがより確かなものになっていくように、私はこういうふう思うんだ。僕はこう思っているんだという部分を思いきり語ってみてください。自分をおつけるところから自分自身の解放は生まれます。この話はなかなかピンとこないかもしれませんが、本当の思いを語ることによって、かつての自分には想像もできなかった生き方ができるようになっていきます。Tさんの全体学習の発言についてもそうです。あの思いを語ってからのTさんとそれ以前のTさんとは全く違う。人間は変わっていくし、変わっていけるんです。そしてそんなみんなの生き方が多くの仲間を揺さぶって、本当の仲間をつくっていきます。そんな営みの中から、みんなは「部落がどうした」と言えるような生き方を自分のものにしていけると思うんです。かつて部落に生まれたことを恥ずかしいと思っていた自分がそれがどうしたと思えるようになって、そんな自分に誇りがもてるようになる。そんな生き方をつかんでいくのがこの学習の意味だと思うんです。私は今高校2年になっている人が、中学3年のときに言った言葉をやっぱり思い出します。その子は隣のクラスの生徒だったんですけど、目にいっぱい涙をためてこう言いました。「先生、私は同和地区でない人と結婚できたら私は同和地区でなくなるんですか」って……。部落に生まれたということへのこだわりや恐れ、できるならばこの苦しみや悩みの中から逃げていきたいという思い、できるならば差別する側になりたい。人間はそんな弱さを持って生きています。でもみんなですべてがどうしたという生き方をつかんでいきたいと思うんです。部落である証拠って見せられないですよ。部落でない証拠も見せられないですよ。特定の地域を指してあそこはそうだと言うその証拠ってどこにあるんだろうか。特定の家を指してその家はそうだと言うその証拠って誰が証明できるのだろうか。みんなはみんなのおじいちゃんやおばあちゃんの名前を知っているだろう。どんな生き方をしていたかということも知っているだろう。それ

じゃあ、そのおじいちゃんやおばあちゃんのおじいちゃんやおばあちゃんの名前を知っている人がどれだけいるだろうか。部落問題というのはその前の時代のことでしょう。それなのにどうして差別していくようになるのか。差別があることによって差別する方もされる方も低位に置かれ両方が生命を縮めてきた現実、そんな差別の本質をみんながしっかりと学んでいくことができたなら、部落差別というのはすぐにでもなくなっていくものですよ。みんなのお父さんやお母さんの年代の人に部落問題について話をすることがよくあります。これは肌で感じることでですけど、4代のお母さんたち、地区外から嫁にきた人が2割か3割おいでます。30代になると5割か6割になります。それが20代になると9割前後の人が地区外の人と結婚されています。10年20年と確実に部落差別はなくなっています。でもその中身が問題なんです。なかなか両方の親や親戚から祝福される結婚には至っていない現実があります。みんなには堂々と自分のふるさとやみんなのお父さんやお母さんの頑張りを誇りとして生きていってほしいと思っています。そんな生き方をみんなとつかんでいくのがこの学習会の意味であり、みんなで本当の思いを語り合っていく意味だと思っています。

C<sub>73</sub>：みんなといろいろ勉強してきて今、部落について思うことは、いろんな人が部落の差別を受けるけど、実際は差別する方が間違っているとわかっているのに、そのことがどうしてわからないのかと思います。今みんなと話し合っていることを思い出として、自分を元気にして、差別と闘う意志というか、そういうものを持ったらいと思っています。今日の昼間の話し合いで、差別する人を殴るとか、殴ったら部落の人は凶暴だといってまた差別されるようになるとか、いろんな意見が出たけど、僕がもし差別されたらその人にわかってもらえるまで話をしようと思います。暴力をふるうということは大人でないということだから、大人になるということは話し合っ解決していく力をつけるということだと思います。

T (吉成) 三つほど話をします。さっき森口先生が話してくれたことにつながるかどうかわからないんですけど、さっき話してくれたようなことが言えるような仲間や世の中をつくっていかねばならないと話してくれたんですけど、ファイヤーストームの火の粉が舞い上がっているのを見ていると、どうしても思ってしまうんです。みなさんは「火垂るの墓」という映画を知っていますか。私はこの火の粉にあの映画の場面が重なるんです。戦争っていうのは本当に嫌だと思っています。私の親も言うんです。戦争は絶対にかんって、二度とあんな思いをしたくないって……。戦争が起きたのは言いたいことが言えない社会がそうさせてしまったのだと思います。今も世界のどこかで戦争が起こっています。言いたいことが言えない社会があるということが一番の原因だと思うんです。私たちがこの部落問題学習をしていくことは、おおげさな言い方に聞こえるかもしれないけど、平和な社会をつくっていく一歩だと思うんです。このことが一つ思うことです。もう一つ思うことがあります。今自然の中でキャンプファイヤーをしていますけど、人間の文明社会が差別をつくってしまうということです。差別と文明社会を直接結び付けることができるかどうかはわからんけど、こんな自然の中に立ってみると自分の醜い心が洗われていくような感じがします。最後に一つ、この前旅行に行ってきたんですけど、その中でいろんな人と出会って話をする機会がありました。その中に「障害」を持っている人が通っている学校で教師をしている人がいて、「障害」を持っている子の話をいろいろしてくれたんです。その学校の子どもたちは、非常に純粋であり、打算とか欲とか全くない。でもそんな純粋な人たちを受け入れていかない社会があります。他人事であったり自分に関わらないところでは綺麗な言葉を吐けるけど、その人たちとは関わろうとはしないのが現実です。人間はそんな醜さをうちに秘めて生きていると思いま

す。だからこそよりよく生きようとするひたむきさが必要なんだと思うんです。話がそれてしまったかもしれませんが、みんなの発言を聞いて思ったことです。

C<sub>74</sub>：今日の昼間、吉成先生や班の子と話をしたんだけど、私たち3年生はこの学習を積み上げていく中で自分の思っていることを言葉にできるようになったんだけど、1年生とかはまだ回数を重ねていないので、まだ部落差別のこととかがよくわかっていないところがあるし、自分の身近にふりかかってくないとわからないし、部落に生まれたことを親からいつ聞いたかとか、学習会で学んだとか話をしたけど、学習会は部落差別がなくなったとしても、学習会で語ることはつきることがないと思うので、学習会は人間を勉強する場として残ってほしいと思います。

T（森口）中学1年、中学2年、中学3年、それぞれの8月25日の夜です。本当に今日きてよかった集まれてよかったという時間にしてくださいよ。

C<sub>75</sub>：僕は1年や2年の頃は部落問題学習の時間がしんどいなあと思っていたけど、3年生になってみんなが頑張り出したので、全体学習やクラスでの部落問題学習のたびに今日は何回発表しようかと目標をたてるほどになりました。



C<sub>76</sub>：私も1年や2年の頃はこの問題に無関心であったけど、今はクラスのみんなやこの火を囲んでいるみんなを大切な仲間として頑張っていくことができるようになってきました。

C<sub>77</sub>：今、森口先生や吉成先生や何人かの人たちが思っていることが言える社会にせないかんと言ってくれたけど、私たちの班も昼間の話し合いの中でそんな話をしたんです。本当にそういう仲間とかそういう世の中をつくっていかなくないかと思えます。班別学習でみんなと頑張ると話したので今も頑張ろうと手を挙げました。高校へ行って自分の住んでいるところを隠して友だちと接していくことは、すごくしんどいことだと思います。私も板野に生まれたことを全然後悔していないし、ここに生まれてよかったと思っています。でも今はそう思っても高校へ行って他の中学校からきた子と一緒にあって、その子たちに流されてしまって自分の生まれたところを隠したりするかもしれません。でも今みんなと出会えてたことを私はすごくうれしく思っています。私は大人になっても幸福になりたいから、みんなも私の仲間だからみんなも同じように幸福になってほしいです。そのためにやっぱりこの問題というのは、そのままにしておくことのできない問題だと思います。みんなで本当に思うことをぶつけ合って、お互いのことがわかり合えてこそ、私たちは幸福になれるんだと思います。

T（森口）部落に生まれたことを恥ずかしがって、高校で出会った人や社会に出て出会った人や、将来本当に好きになって結婚しようと思った人に、みんなの本当の思いを隠していくような生き方だけはしてほしくない。やっぱり思う。部落に生まれたことを恥ずかしがったり、そのことを隠し続けるということは、心の中に部落差別が入っていて、差別する意識がいつばいあって、自分がそう思ったら、つらくてたまらないし恥ずかしくてたまらなくなる。私たちの心の中にあるそんな意識を精一杯洗っていく生き方ができたら、私たちは自分自身に誇

りを持って生きられるようになると思う。何も恐れることはない、何もこだわることはない、みんなの中にある差別する意識を精一杯洗っていこう。そうすることによって、みんな自身は解放されていくし、みんなが生きる世界は変わっていきます。今、多くの仲間が精一杯語ってくれた思いに精一杯の言葉でつなげてください。

C<sub>78</sub>：今年初めて一泊研修に参加したけど、1年のときは行きたくなくて、別に後で後悔することはなかったけど、3年になってちょっと変わり始めて、今日きてなかったらものすごく後悔したと思います。それで部落の子でなかったら一泊研修も来れなかったし、学習会にも行けなかったし、いろいろ学ぶこともなかったと思うし、今は部落に生まれてよかったと思うので、その気持ちをずっと持っていけるようにしたいです。

C<sub>79</sub>：私も3年の今のクラスになって初めて、自分が部落出身ということクラスの人に言いました。言うまではずっと何をしても人の目とか、いろんなことが気になって何をしても人より下がって、ずっとそのことにこだわり、後ろめたい気持ちがありました。でも初めて自分のことを言って、それからみんなの態度とか、そういうのが変わらなかったことがすごくうれしくて、みんなに言ってよかったと思うし、友だちを信じてよかったと思いました。これからも頑張っていきたいと思います。

C<sub>80</sub>：1年や2年のとき、私は全体学習にあまり真剣に取り組んでなくて、発表することもなかったけど、その中で3年生が一生懸命やっていて、また1年や2年の子の中にも一生懸命やっている子がいて、その子たちが3年生に質問を投げ掛けたとき、すぐに答えてくれた3年生とかいっぱいいたし、今も3年生だけの話し合いみたいになっているけど、1年や2年の子の意見も聞きたいし、また全体学習の場面では先生の意見とかもあまり聞けないので、先生の意見も聞かせてください。

T（近藤）先生の意見を言います。班別学習の中でも言ったことなんですけど、私は大学に行くまでは部落問題の「部」の字も知りませんでした。そんな人間です。教員になって同和教育やってきておもしろくなかった。何でおもしろくなかったか、それは結論のわかっていることを1時間、2時間しゃべらないかんとこの思いがあったからです。そんな思いが私の中にある。生徒もそんな顔してこちらを見ている。そんな時代が10何年も続いた。そんな中で酒を飲みながら部落問題とか、人間の生き方とか、しゃべる仲間に出会って話をしている中で、自分が今までやってきた部落問題学習の時間、部落問題に対する取り組みが間違っていたことに気づきました。去年板野中学校にきてそのことがおぼろげながらわかってきた。でも今自分がみんなの思いに寄り添って頑張っていけるかと言えば、それはまだまだそんな自分がものすごく情けないし、どうにかしたいと思っている。さっき森口先生と話していたときに、「自分が部落出身だということを言ったら人生が変わる」と言ってくれた。私は思った。私は何をしたら人生が変われるんかって……。みんなの意見を聞きながらずっとそのことを考えていた。みんなの話を聞く中で、そのことが見えてきた。私の親戚に教員している人がいる。その親戚の娘さんが地区の人と結婚した。もう6年ほど前に……。その親戚の人が言うには、その旦那は仕事もせんし、酒ばかり飲んでいっているという。そんな話を聞かされたら、私はその人と会ったこともないのに「やっぱり部落の人間は」って思ってしまう。今そのことを思い出した。今度その親戚の人にこの話をする。これが一つ私の課題だと思う。一歩踏み出すことから私は本当の人間になれると思う。

T（森口）大半の先生が部落問題に関わって本当のことは言わないんです。だからこの問題はなくなっていかなかったと思うんです。そんな中で全体学習という取り組みが始まったんですけど、わずか4年たらずの間にすごい反響が出てきました。それは先生も生徒もその両方が本当の思いを語ったからだだと思います。この学習は教師も生徒もその両方が本当の思いを語ることから始まっていくと思うんです。その中で教師も生徒もその両方が変わっていく。そ

れがこの学習の意味だと思うんです。私自身この全体学習という取り組みの中で大きく変わっていききました。私自身部落に生まれたことを恥ずかしがってふるさを出ることばかりを考えた高校時代がありました。大学時代も揺れ続けました。このまま負け犬として生きていくのかと思った時代がありました。教師になって頑張るんだと思ったけど、なかなか頑張れませんでした。でも多くの仲間と出会い、この問題に寄せる思いを語り合う中から変わっていききました。特に板野中学校にきてからなんです。世界が変わるんです。このことを語り合っただけでこそ本当の仲間になることができるんです。1週間ほど前、北海道の根室というところに出張していました。全国各地47都道府県から47人の社会科の先生が集まって研究会なんです。同和教育とは全く関係のない研究会であるのに、沖縄の先生や京都の先生や香川の先生、愛媛の先生と同和教育に寄せる思いを一晩中語り合うようになるんです。このことを語り合うことによってお互いの生き立ちや生き方、本当の思いを語り合う場面がそこにできていって、初めて出会った人たちなのに固い絆ができるんです。まさしくこの学習は人間として本当の生き方をつかんでいく学習であり、互いの存在を尊敬し合う本当の仲間をつくっていく学習だと思うんです。私は本当の思いを語り合う仲間をどれだけ持っているかで、私たちの人生は確かなものになっていくと思います。自らの意志を偽っていくごまかしの人生で終わるか、自分は自分の人生を精一杯生きたんだという喜びに溢れる人生にしていくことができるか。それは今みんなが積み上げている部落問題学習がそのことを問いかけていくと思います。

- C<sub>01</sub>：さっきの近藤先生の親戚の話についてですけど、近藤先生の親戚の娘さんの旦那さんが酒を飲んで仕事もつかないでいると話してくれたけど、仕事につかないというところに差別があると思います。部落差別があるからそんな目で見られて、酒ばかり飲んでいられると言われていく関係って、本当に悲しいと思います。部落の人というだけでレッテルを張って少し欠点があるとやっぱりと見ていくことに私はものすごく腹が立ちます。
- C<sub>02</sub>：今までみんなの意見を聞いていて、一人ひとりが真剣に部落問題学習に取り組んでいるのがすごいと思います。私も6年生のとき自分の住んでいるところが部落と言われて差別されていると聞かされて、すごくショックを受けたけど、6年生の最後から今まで勉強してきた、本当の仲間がいるとわかったから頑張ろうと思うようになりました。
- T（森口）今のA君の話にもどるけど、酒を飲んで仕事をしない人が部落の中にいるかもわからないし、部落外にもいるだろうと思うけど、部落の人がそんな状態になったらやっぱりと思ってしまうのが差別だと思うんです。そんな見方をされていったら人間って力が抜けていくし、やる気もなくなると思うんです。そんな中で差別に負けてしまうこともあると思うんです。そういうふうを決めつけてしまう社会の間違いを正していく生き方をしていきたいと思います。部落の人、部落でない人と区切って違った目で見えていく社会でなくて、同じ人間として同じようにうれしいことはうれしい、つらいことはつらいと言い合える関係というか、社会になっていかなあかだと思います。私たちの中にあるあいつはこうだと決めつけていく。そういう偏った見方しかできない意識が私たちの中にある。そういう差別意識をどうやって洗い続けていくかということが問われていると思うんです。
- C<sub>03</sub>：今日、ちょっと発表しようかやめとこうかと迷っていたんですけど、近藤先生が言ってくれたし、みんなはそんな人間でないと思うから話をするけど、部落ということでそんな見方されるのはほんまにつらいし、とてもいやな感じがします。
- C<sub>04</sub>：さっき近藤先生の話について言ってくれたことでA君やみんなが言ってくれたことと私も同じなんだけど、その人がそうなった原因の中に就職差別もあったと思うんです。またその人が好きでそうなったのではなくて、そういうふうに進められていったという面もあると思います。そんなことに気付かずやっぱりなあ決めつけていく人の方が、その人より何倍もよごれた人だと思っています。私もまだよごれている部分がいっぱいあるけど、それを洗って

くために今一生懸命この学習に取り組んでいるわけで、この差別は本当に厳しいものがあると思うけど、この小さな輪の中から一言ずつしゃべることが一つの勇気になると思うから、みんな一言でもいいからこの問題について本当に思っていることをしゃべってください。

- T (森口) こういう機会、こういう出会い、こういう場面をみんなが大事にできたらと思います。部落差別はみんなの腹の中にある。心の中にある。ものが言えない、思っていることが言えない、こだわりがある、恐れがある。こんなこと言ったらみんなに褒められないだろうかという恐れ、そんな思いに支配されている自分を解放していく闘いです。自分の内にある部落差別をしっかりと洗っていく、ドロドロした差別意識を洗っていく闘いです。みんなで本当の思い、本当の言葉、本当の願いを語り合ったと言える時間にしましょう。
- T (河野) ちょっとかまいませんか。一言、言わせてください。私の弟は耳が聞こえません。補聴器をかけたらやっと聞こえます。今までそんな状況で頑張っている弟と、どう関わってきたのかと自分の中で考えたら、ずっとそのことを人に知られるのが嫌でした。だから兄弟のことをしゃべることができませんでした。私には弟と妹がいるんですけど、妹のことは何のこだわりもなく言えるのに、弟のことはなかなか言えません。自分の実の弟のことがみんなの前でしゃべれません。そんな自分でした。それがこういう学習をしている中で、板野中学校の全体学習を見ている中で、学習会に入って部落問題学習をしている中で、部落差別、部落問題を真剣に考える自分ができました。人を人と認めない、河野を河野と認めない、特別な人間と決めつけられていく人間がいっぱいいる。同じ日本に生まれて、同じ徳島に生まれて、どうして部落外の子はその人物で見てくれて、どうして部落の子はその人のこと知らないのに言い伝えだけで判断されていく。そんなことって絶対なくしていかな、めっちゃめっちゃおかしいことだと思い出して、やっと自分の弟に対する気持ちって言うのがはつきりとわかってきました。自分の中にある弟、極端な言い方をするけど、家族の中だったら気軽に話ができるのに、いざ外で家から出て弟のことが話に出ると、自分の弟でないような、自分には全く関係ないような素振りをしてしまいます。そんな自分がすごく恥ずかしいと思えてきた。本当に情けないと思うようになった。実の弟のことさえそんな目で見ると自分があつたと思うと、そんな自分がものすごく恥ずかしくなってきたんです。私の部落問題学習というのは、自分と弟の関わりだと思うし、私はそんな自分を変えていくために、自分自身のために部落問題学習をしていきたいと思っています。
- T (富加見) 学習会では初めてのキャンプファイヤーです。学習会に参加できていなかった仲間もこの一泊研修に保護者や先生方の協力で参加できてうれしいです。私は板野中学校に赴任して8年目になりますが、このキャンプファイヤーでのみんなの話を聞きながら、いろんなことを思い出しました。板野中学校へ赴任した最初の年に1年生を担当し、2年生、3年生と担任して、皆さんのお兄さんやお姉さんと部落問題学習をしてきましたが、自分は何ができたんだろうと反省させられます。あの頃は全体学習もなく、担任と学級の生徒だけの話し合いでした。今、このように話をしているような自分の気持ちを出し合える話し合いにはなっていないかと思っています。皆さんはここで話し合っている思いをそれぞれの学級に持って帰って広めてほしいし、それから家にも持って帰って報告してほしいんです。そして板野中学校でしている全体学習やこのキャンプファイヤーでの話し合いを多くの人に広めていって、間違った考えを持っている人の考えが変わるようにしていけたらと思っています。私ももっともっと頑張って自分の差別意識をなくしていきたいと思っています。
- T (中山) 板野中学校にきて1年半と、その前の自分を比較してみたら、それまで部落問題学習を小学校、中学校、高校としてきたはずなのに、それまでの部落問題学習と板野中学校で体験した部落問題学習は全然違ったんです。例えば、全体学習にしても、初めて見たときはこの授業って大勢の中でマイクを持って、この授業って何だろうというような思いで見えていま

した。その授業の本当のよさがわかってきたのは半年ぐらいたってからだと思います。それまでの半年ぐらいの間は自分自身、部落問題学習から逃げていたんだと思います。もっともっと早い時期にこの問題について真剣に考えることができなかつたんだろうと思います。

- T (森口) 先生方がいっぱい語ってくれたけど、この教育の営みというのは自分自身との闘いですよ。みんなの中にある部落、部落差別、差別意識、そんな恐れやこだわり、そんな自分自身と闘っていく。そして「それがどうした」と胸を張って間違いが説ける。そして、毅然とみんなを育ててくれたお父さんやお母さん、おじいさん、おばあさんに誇りを持って生きられる。みんなを育ててくれた人に感謝し、その思いをつなげていき受け継いでいく。そして、差別という愚かなものを本当になくしていく生き方を自分のものにしていきましょう。

- C<sub>85</sub> : 今日、先生の話聞いて先生がこれほど同和教育に自分をかけているんだということがわかりました。僕たちももっと部落問題学習を頑張らなければと思いました。

- C<sub>86</sub> : 今日の一泊研修に全員は参加していないけど、このまだまだ小さな輪(キャンプファイヤーを囲んでいる輪)をもっともっと大きな輪にしていきたいと思います。

- C<sub>87</sub> : 最後に言いたいことは、言葉は飾らなくてもいいし、同じような発言でもいい、みんなのその本当の思い



を語っていくことが大切だということです。今みんなはキャンプファイヤーの火を見ているけど、空の星に気付いた人はいますか。僕は何かに行き詰ると星を見つめます。心を穏やかにして自分というものを見つめ直すことが僕たちには必要だと思います。

- C<sub>88</sub> : 今、ここで見たら小さな輪かもしれないけど、板野中学校の学習会にはまだまだ参加していない人もいるし、その人たちが全部参加したらもっと大きくなるだろうし、また徳島の仲間が集まったらもっともっと大きな輪ができるだろうし、全国に行ったらものすごく大きな輪になっていくと思います。仲間はここだけと違うと思うんです。生徒だけの仲間というのでもなくて先生も仲間だと思います。みんなでもっともっと輪を広げ合って差別に立ち向かっていきたいと思います。

- C<sub>89</sub> : 今日、いっぱい仲間の意見とか、先生の意見とかを聞いて、その中で河野先生が自分の弟さんのことを語ってくれたことが、ものすごく心につき刺さりました。河野先生とはそんなに話をしたことがないけど、部落問題を自分の生き方と重ねて頑張っていこうとしている河野先生はすごいと思いました。自分の苦しいことを黙ったままにしていく社会ではなく、本当の思いが語り合える社会にしていけるために、この学習をしているということがわかってきました。また河野先生だけでなく自分の生活と重ねて部落問題を語ってくれる先生がいっぱいいることが本当にうれしいです。私は絶対に負けません。

- C<sub>90</sub> : 私は3年生になるまでは授業中、先生から指名されなければ発表することができませんでした。3年生になって自分から本当の思いが言えたときはうれしかったし、心の中から重いものがなくなっていくのが自分でもわかりました。いくら心の中でいろんなことを思っても、そのことを語っていかなければ人間は強くなれないと思うんです。あまり時間がないみたいだけど、この時間を大切にみんなの思いを語ってほしいと思います。

- C<sub>91</sub> : 私は河野先生がさっき言ってくれたことで、すごくつらくなったんです。そのつらくなっ

た理由というのは、自分の中にある自分が目が見える、耳が聞こえる、口が聞ける、手足が自由に動くということが優越感になって、その意識が「障害」を持っている人を苦しめているんだということに気づいたからです。さっきKさんが言ってくれたように、河野先生は本当にすごい人だと思います。私が部落出身ということを知ったのは、小学校の高学年のときだったけど、それより先に私は「障害」者差別を知りました。それは私が小学校1年のときに、私のおじいちゃんが「障害」者になったからです。私は今みんなとやっている部落問題学習を通して様々な差別と向き合って、自分がどのように生きていくかをしっかりとつかんできたいと思っています。今日私は河野先生からものすごく大きなものをもらったと思います。自分がどう生きていくか、自分が本当に好きになっていけるようにみんなと頑張っていきたいと思っています。

- T (山口) すみません。少し言わせていただきます。私も学習会に参加させてもらって、今日のようなみんなの意見を聞く中で、今まで自分は立場上、いつも周りの子にこうせないかんとか、こんな雰囲気をつくっていかうとか、そんなことばかり考えていたところがあります。みんなの意見を聞いて思うことは、外を見るんじゃなくて自分の心の中がどうなっているのかということをしつかりと見ていかないと、周りの人に対する自分の意見というものが上辺だけのものになっていくと思ったんです。そんなことをキャンプファイヤーの火を見ながら考えていました。今までキャンプファイヤーを何度か経験しました。でも今までこういうふうに自分の内面を見つめながらキャンプファイヤーの火を見つめたことはなかったように思います。みんなは中学生にして、そんな自分の内面を見つめてキャンプファイヤーの火を見ることができたのは本当にすばらしいことだと思います。私も中学時代に自分の心の方を向いて考えることがあったら、もう少し生き方も変わっていったと思います。でも今さら後ろを振り返っても私の今までのことが変わるわけでもないのですから、これからの私の生き方をもっとしつかりとしたものにしていきたいと思っています。
- C<sub>92</sub> : 私は今日の一泊研修に参加して本当によかったと思います。普段は先生の意見とかはあまり聞けないんだけど、山口先生とか河野先生とかの本当に思っていることを聞くことができてよかったと思います。なんか先生はすごく年上なんだけど仲間なんだなあとってすごくうれしかったです。
- C<sub>93</sub> : 3年生の意見を聞いて、3年生はすごく部落問題に関して心を深めているんだなあと思いました。先生たちも自分自身のことでもっとも言いにくいことがあったらうけど、私たちを信じてくれて本当の話をしてくれたことがすごくうれしかったし、先生たちにはすごい勇気があるんだと思いました。
- C<sub>94</sub> : 最後に言います。来年の一泊研修や部落問題学習では2年生や1年生のみんなが頑張ってください。
- T (吉成) 私自身の中にも人に言いづらいこととか、重苦しいものがあり、それを背負って生きているように思います。でもそんな重荷を共に担ぎ合って生きていくのが人間の生き方だと思うんです。私自身の中にかつて人を傷つけてしまった部分があって、そのことが年ごとに大きくなって腹の中にたまってきて段々と膿のように腐っていくんです。私は思います。その膿を洗っていくことが私の生きる道であり、私自身を解放していくことだと思うんです。人間は自分を解放するために闘っていく、自分の差別意識と向き合って、自分のドロドロしたものをごまかさずに洗い続けることが本当に生きることだと思うようになってきました。私にとって部落問題学習とは私の中にたまってきた膿を洗っていく闘いだと思うようになりました。一人の人間としてみんなと部落の解放に向けて生き続けたいと思います。
- T (森口) 本当にすごい先生方と出会えたことに手を合わす。人間ってどこまで美しくなれるのかと思う。私は教師ほどきたくないものはないという思いを秘めて教師になりました。でも今

は違います。でも部落問題に関わって部落差別をしていく教師の姿が心の中にあります。人のことに対して、遠くのことに対しては美しい言葉は吐くのに、身内の結婚問題になると自分自身の問題になると見事に差別をしていく現実。そんな中で苦しんでいる仲間が何人もいる現実。みんなのこれからの道のりはまだまだ厳しいものがあるかもしれません。でもみんなは部落を解放していく人生の教師であり続けてほしい。命令に従順に間違っていることにもついていく兵隊であってほしくない。正しいことを正しいと、間違っていることが間違っていると言える人生の教師であってほしい。やがてみんなは板野中学校を巣立っていき、高校や実社会へと進んでいく。でもこういう場面がもてたこと、このキャンプファイヤーの火の中で、自分の本当の思いを語り合えたことをこれからの長い長い人生の心の糧にして、部落というものにこだわって自分の生命を縮めている差別者を変えていく力を持って、これからの人生を生き抜いてほしい。みんなにはそんな生き方ができる。そして、今日みんなの中にともった火、それは部落解放の火であり、人間を本当に解放していく火だと思えます。この火をクラスの仲間や皆さんの家族や、これからの人生の中で出会う人たちにともし続けてください。みんなには人を変える力があります。そして部落差別を始めとする様々な差別をなくしていく力があります。そんな自分に誇りを持ってこれからも頑張ってください。

T（富加見）みんなの中から、先生たちから本当の思いがいっぱいだとと思うんです。やっぱりこの問題を学習していくときに、一人が本音で語ったら、次の人がそれに応えていく。1日かかっても2日かかっても語り尽くすことができない思いがみんなの中に詰まっていると思います。この夜の感動をいつまでも私たちの心に止めて、これからの部落問題学習の中に生かしていきたいと思えます。最後に各班の班長さんに、一言ずつ語ってもらってキャンプファイヤーを終わりたいと思えます。

C<sub>95</sub>：私たちA班は、力強く一人ずつ仲間を増やしていくことを誓います。

C<sub>96</sub>：私たちB班は、友情の輪を広げ、差別解消に向かって生きていくことを誓います。

C<sub>97</sub>：私たちC班は、自分自身を解放していくために、力をつけ信頼できる仲間をつくっていくことを誓います。

C<sub>98</sub>：私たちD班は、友と支え合ってひたむきに生きていくことを誓います。

C<sub>99</sub>：私たちE班は、差別をなくし、明るい社会をつくることを誓います。そのためにこれから差別をなくしていく努力をみんなですしていきます。

C<sub>00</sub>：僕たちF班は、今日の最後の誓いというのではなくて、今思うことを話します。みんな星を見てください。気づきましたか。あの星一つ一つの中に地球のような星もあると思います。そんなそこから地球を見たって米粒みたいに見えると思います。そんな世界と考えたら、この輪はちっぽけなものだと思うし、この地球もちっぽけなものだと思います。その地球という星に生まれた僕たちは、今昔の人がつくった部落差別をなくすために今活動しています。僕たちはみんなの思いが込められたこのキャンプファイヤーの火を一人ひとりの魂にともし、この地球に人間として生まれた喜びをみんなとつかむために頑張っていくことを誓います。

C<sub>01</sub>：私たちG班は、部落問題学習で何でも言い合える仲間や世の中をつくっていくことを誓います。

T（富加見）ここで自由の女神さんに一言お願いします。

T（木内）この大変感激のある火のもとで、みんなが輪をつくり心ゆくまで語り合いました。この大切な1993年8月25日、この『あいあいらんど』でのこの語り、一生みんなの心の中に炎のごとく燃えたぎり忘れることがないでしょう。それでは今日の日に深く感謝し火を送りたいと思えます。

T（富加見）全員で「今日の日はさようなら」を合唱します。

《全員で「今日の日はさようなら」を合唱しキャンプファイヤーは終了する。》